

JTUパラトライアスロン強化プラン (2013 - 2016, 2020)

2016年リオデジャネイロ パラリンピック

目標:メダル1以上、出場者3名以上

公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU) の専門チームである JTU強化チームの方針のもと、JTUパラリンピック対策プロジェクトとして強化プランを作成、2016年および2020年開催のパラリンピックでのメダル獲得を目指す。

(2013年11月現在、ITUより、ITUが主催するレースへ出場するための明確な基準が未発表のため、その基準等の発表により修正される可能性もある)

2014年以降のITUの動向(1)

トライアスロン(エリート)と同様の基準

➤ 最大出場者枠:

イベント カテゴリー	最大 出場者数枠	ランキング による選抜	招待	国別枠数 ／カテゴリー
世界選手権	100	90	10	2
大陸別選手権	70	55	10	3
インターナショナル イベント	60	40	10	4 (開催国:+1)
パラリンピック	60 (3カテゴリー)			2

- TRI 1, TRI 6の出場者枠数は4か月前までにTDが判断し発表する
- 世界選手権のエントリー時までにはクラシフィケーションを済ませること
(これまでのように、現地では実施されない)
- 各カテゴリー(男女別)、最低3枠は確保される(最低3名以上の出場が必要)

2014年以降のITUの動向(2)

トライアスロン(エリート)と同様の基準

▶ スタートリスト & ウェイトリスト

各大会、開催初日の**33**日前までにエントリーシステム経由でウェイトリストにエントリー
各大会、開催初日の**32**日前に以下の優先順位に従ってスタートリストが発表される

1. ITUランキング上位者(但し、国別枠数以内)
2. 枠に満たない場合は、開催国、**NOC**コード順に各国各**1**名追加(繰返し)
3. ランキング外の選手に関しては、各国が順位付けしてエントリー
4. 出場枠数を超えたエントリーは、上記条件順にウェイトリストに掲載
5. **32**日前を過ぎたエントリーはウェイトリストの最後に掲載
6. 国別枠数に達しても最大出場者数に至らない場合は、開催国、**NOC**コード順に追加
7. **12**日前までに限り、各カテゴリーにつき各国**1**名まで選手の入替え可
8. 出場辞退者が出た際はウェイトリスト上位者より補充。ウェイトリスト掲載の選手は、競技説明会に出席し、選手登録終了まで準備をしておく(ことが望まれる)
9. 招待選手は、いずれの出場枠数に関わらず招聘委員会の裁量により決定

2016年、2020年へ向けたロードマップ

2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
------	------	------	------	------	------	------	------

2016年リオデジャネイロ パラリンピックに向けて

強化

現世界ランカー(最低**10**傑以内)を中心に

- 強化指定選手制度
- ハンドラー・ガイドの育成
- 競技ギアの開発

2020年東京 パラリンピックに向けて

普及・育成・TID ⇒ 強化

選手発掘、競技人口の掘り起し、パラ対策PJ内に担当者を配置

- 競技人口増加、ハンドラー・ガイド、クラシファイヤー、審判等の育成
- 国内大会数増加
- 他競技団体との連携

2016年リオデジャネイロ・パラリンピックに向けた強化

目標:メダル1以上、出場者3名以上

強化方策:

1. 現世界ランカー(最低10傑以内)を中心に強化
 - 強化指定選手制度の整備
 - 弱点種目の強化
 - トランジションタイムの短縮(ハンドラー、ガイドの養成・強化)
 - 競技ギアの研究開発
2. **TID(2014年度～2015年度前半)**
 - パラトライアスロンに未出場、および他競技から挑戦する選手の発掘
 - 国内レースの競技成績により判断
3. 育成・普及
 - 現競技人口男子30名、女子10名 ⇒ 男子60名、女子20名
 - 現国内5大会 ⇒ 各地域開催:10大会開催
 - 日本選手権の開催(要検討)
 - JPCへの本加盟

※2020年東京・パラリンピックに向けては2, 3からの選手を中心に強化

2016年へ向けたロードマップ

	2013 シーズン	2013 ポストシーズン	2014 シーズン	2014 ポストシーズン	2015 シーズン	2015 ポストシーズン	2016 シーズン	2016 ポストシーズン
全体	アジア選手権視察 (4月スービックベイ) パラMTG横浜(5月) 世界選手権視察 (9月、ロンドン)	パラMTGラポール (12月) JPC登録申請(3月) 日本選手権検討	パラMTG横浜(5月) 日本選手権検討	パラMTGラポール 日本選手権検討	パラMTG横浜(5月) 日本選手権	パラMTGラポール	パラMTG横浜(5月) 日本選手権	パラMTGラポール (10月)
強化 (to 2016)	世界選手権派遣 (9月、ロンドン)	強化拠点整備 (11月、横浜ラポール) 強化指定選手制度 (S・A・B・C、14.1月~)	WTS横浜(ITU) ・事前合宿(4,5月) ・強化選手派遣(S・A) 海外ITU大会派遣(S・A) 強化合宿(7月) 世界選手権派遣(S・A) (8月、エドモントン)	2015ナショナルチーム (*15, 1月~)	WTS横浜(ITU) ・事前合宿 ・強化選手派遣(S・A) 海外ITU大会派遣(S・A) 強化合宿 アジア選手権派遣 世界選手権派遣(S・A) (シカゴ)	2016ナショナルチーム (*15, 1月~)	WTS横浜(ITU) ・事前合宿 ・強化選手派遣(S・A) 海外ITU大会派遣(S・A) 強化合宿 アジア選手権派遣 リオデジャネイロ・ パラリンピック(9月)派遣 ・メダル:1、出場:3	
TID (to 2016 or 2020)			国内大会出場者 →有望選手 →強化指定(C) →翌WTS横浜推薦 海外レース希望者 →推薦 →ポイント獲得 →強化ランクup		国内大会出場者 →有望選手 →強化指定(C) →翌WTS横浜推薦 海外レース希望者 →推薦 →ポイント獲得 →強化ランクup		国内大会出場者 →有望選手 →強化指定(C) →翌WTS横浜推薦 海外レース希望者 →推薦 →ポイント獲得 →強化ランクup	
育成 (to 2020)			国内大会出場者 →有望選手 →強化指定(C) →翌WTS横浜推薦 海外レース希望者 →推薦 →ポイント獲得 →強化ランクup		国内大会出場者 →有望選手 →強化指定(C) →翌WTS横浜推薦 海外レース希望者 →推薦 →ポイント獲得 →強化ランクup		国内大会出場者 →有望選手 →強化指定(C) →翌WTS横浜推薦 海外レース希望者 →推薦 →ポイント獲得 →強化ランクup	
普及	国内5大会開催 (既存+2大会:蒲郡・ 七ヶ浜) 国内競技人口(推定) 男子:30名 女子:10名		国内5大会開催 (スプリント等以外の パラトライアスロン関連 イベント)		国内5大会+α開催 (スプリント等以外の パラトライアスロン関連 イベント)		国内10大会 (既存+5大会:中国・四 国・北信越・九州・関東) 国内競技人口(目標) 男子:60名 女子:20名	

2016年リオデジャネイロ・パラリンピックに向けた強化具体策(1)

1. 2014年強化指定選手制度、ナショナルチーム制度(男子)

資格	認定基準	資格等の授与
S指定 〈現候補者1名〉	2013年世界選手権 5位以内 2013年世界選手権終了時ITUランキング 5位以内 2014年ITUランキング 5位以内	世界選手権派遣 インターナショナルイベント・WTS 推薦、強化合宿派遣
A指定 〈現候補者2名〉	2013年世界選手権 10位以内 2013年世界選手権終了時ITUランキング 10位以内 2014年ITUランキング 10位以内	世界選手権・インターナショナル イベント・WTS推薦、強化合宿派遣
B指定 〈現候補者なし〉	2013年世界選手権 15位以内 2013年世界選手権終了時ITUランキング 15位以内 2014年ITUランキング 15位以内	上記レース等 推薦
C指定 〈現候補者なし〉	国内レース完走者のうち有望者を競技成績によりパラ対策PJが判断	上記レース等 推薦

※各認定の要件はその2倍数を超える出場者、対象者がいること

※女子に関しては出場者が少ないために上記の適応はせず、競技成績によりパラ対策PJが判断
(世界的に女子の競技人口は少ないため、有望と思われる選手に関しては積極的に判断)

※資格を持たない選手でも、申請により海外レース、国内レースへの推薦を行う(推薦依頼の申請)

2016年リオデジャネイロ・パラリンピックに向けた強化具体策(2)

2. 弱点種目の強化

- 強化指定上位選手を中心に、年数回、JTUパラトライアスロン強化協力施設となる横浜ラポールを中心に強化合宿を実施
- 指導者、ハンドラー・ガイドも帯同を推奨(専任ハンドラー・ガイドの養成)
- 他競技団体(水泳、自転車、陸上を中心)との合同練習、およびそれらの競技団体の練習への参加

3. トランジションタイムの短縮

- レース、合宿等の遠征には、パーソナルハンドラーやガイドの帯同を推奨
- トライアスロン関係者、障害者スポーツ団体、PT、OTから協力者を募る

4. 競技ギアの研究開発

- 義肢装具士との連携をはかる
- 研究費を獲得、投入

その他

- 国内レース完走者から有望選手を発掘
- 世界選手権出場のためには、クラシフィケーションのために国際大会への出場が必至
- 2020年に向けた強化具体策は、2014年シーズン中に骨子作成

各委員会との連携・課題

1. 情報戦略・医科学委員会(強化チーム)

- ITUの動向の確認
- 競技ギアの研究開発の推進
- レース分析、動作解析等の推進

2. 指導者養成委員会(強化チーム)

- 障害者スポーツ指導員・トレーナーの資格養成講座の情報発信
- 日体協指導員資格・トレーナー資格保有者への働きかけ

3. メディカル・アンチドーピング普及委員会

- パラトリアスリートを対象としたドーピングに関する啓蒙
- クラシファイヤー資格の取得
- 合宿やレース等の遠征への帯同

4. 技術委員会、審判委員会

- 国内のパラトリアスロン競技開催に向けた環境整備
- パラトリアスロン競技審判の養成
- ハンドラー(スイムイグジットハンドラー含む)の養成